

みなさま、いかがお過ごしでしょうか？

私事ではありますが、先日実家の父が同窓会へ行く旅行に同伴しました。昨春秋に頸椎骨折をして約五ヶ月間入院していましたが、なんとか四月に退院したところです。本人元気ではありますが、歩行が難しくなっていて歩行補助器が必要になりました。自宅の中ではひとりでも動けますが、いざ外出となると付き添いが必要です。母が一生懸命介護しています。しかし衣服の着脱一つとっても、母がしようと思うことと父が自分で動こうとすることとどうしてもズレがあつて、そのたびに小さな衝突が起こります。いつそ父が何もせずに母に言われた通りにしたがつている方が母は世話しやすいのかも知れません。しかし、言われるまま従つてばかりだと自分で考えなくなりません。老人にそれは良くないでしょう。自分でできることはがんばつて・・・といひながら、自分で何かしようとする「ちよつと待つて」と止めてしまふ。

一生懸命見守ろうとするばかりにかえつて本人の動きを奪つてしまふ。そんな矛盾は子育てだけでなく、介護にもあるんですね。

## 行事予定



六月二十五日 ヨガの会

七月 十三日 まこと会 夏法座

講師 住職

### ★親睦旅行について

昨年は企画当初に八月の土砂災害があり中止となりました

今年こそは！と只今企画中です

日にち 十一月十日 火曜日

場所 山口方面

詳しいご案内を夏以降にお送りします

申込はお早めに 予約も受付中！

## 「門主親修で七十年法要

七月三日 「平和を願う法要」

平和記念公園 供養塔前

午後二時半より(参拝自由)

七月四日 「全戦争死没者追悼法要

並びに原爆忌七十年法要」

広島別院

午前十時より(一ヶ寺三名まで)

「非戦・平和を願つて」の歩みを続けてきた広島別院が戦後七十年を迎えるにあたり、さらなる非戦と平和への願いを込めてご門主様をお迎えして前記の法要を営みます。三日の平和公園の法要は参拝自由ですのでどうぞ皆さまご参拝ください。四日の別院の法要は残念ながら人数制限がありますが、インターネット中継が行われます。アドレスについてはお問合せください。

【春季永代経法要 坊守覚え書き】

\*お経とは・・・

お釈迦様が弟子たちにお話になった説法を、お釈迦様亡き後に弟子が集まって文字に記していったもの。「仏説〇〇」や「〇〇経」と名前がついているものがそれです。

浄土真宗では次の『浄土三部経』を聖典として大切にしています。

無量寿経（阿弥陀さま目線で阿弥陀仏のおはたらきを説いた）

観無量寿経（私たち目線で阿弥陀仏のおはたらきを説いた）

阿弥陀経（無量寿経のなかでも繰り返し伝えたいとされた部分）



法事など一般的な仏事においては、今日お勤めになったように阿弥陀経が勤められることが多いと思います。

阿弥陀経はお釈迦様がこれだけは伝えておきたいと、弟子から問われることなしに自らお話になった自問自説の説法です。

阿弥陀経のおことばより

\*執持名号—— お念仏するの回数や唱えぶりは関係ない

\*我見是利 故説此言——どんなひとにも受け取らせ、よろこばせ、

そして救うということをお届けして下さい。

ちなみに、日頃私たちが親しんでいる『正信念仏偈』は親鸞聖人がお書きになった詩です。

『正信念仏偈』は、お釈迦様の教えが七高僧を経て親鸞聖人にまで正しく伝えられたということを喜び、深く感謝されて、その感銘を詩にして私たちに伝えて下さっているものです。

無量寿経の中に、重誓偈という偈（うた）があります。

我建超世願——全てのものを救うという、今まで誰もなしえなかった

願いをたてる。

名号超十方——名となり声となって衆生に受け取らす。（道も見えない、行く先も分からない者に対して、一番確実な方は声となって、南無阿弥陀仏と届く）

もし、この願いが成り立たなければ、仏にはなりませんと重ねて誓われている、阿弥陀さまの命がけの救いがこの短い偈（うた）の中に込められているのです。私たちは、その仕上げられたお念仏をそのまま受け取ればよいのです。

